

藤 支 発 7 7 6 号  
平成 2 9 年 7 月 1 8 日

保護者 様

大阪府立藤井寺支援学校  
校 長 藤 井 雅 乘

## 平成 2 9 年度 第 1 回学校協議会について（報告）

平成 2 9 年 6 月 1 2 日（月）に開催致しました学校協議会の要旨を報告致します。

**協議会会長：**安元 祥二（学校法人関西金光学園関西福祉大学金光藤蔭高等学校 校長）

**協議会委員：**北村 敦（藤井寺市立藤井寺小学校 校長） 校務により欠席

北川 末幾子（大阪府立大学大学院看護学研究科 准教授）

竹澤 住江（卒業生保護者 しゅらの郷福祉会理事 支援センターしゅらの郷管理者）

梶ヶ山 叶（藤井寺市民生委員 児童委員協議会）

玉田 尚美（PTA会長） \*敬称略

### 1 開会

- ・挨拶 校長 藤井 雅乗
- ・配布資料の確認

### 2 報告

#### ① 平成 2 8 年度 進路状況について（進路指導部長）

進路未定者はおらず、全ての卒業生の進路が確定した。

傾向としては高等部卒業者のうち、複数の施設を併用している方が多い。

近年、生活介護施設の開所が続き、入浴サービスや医療的ケアにも積極的な施設も複数見られることもあり、医療的ケアの必要な卒業生の進路状況は改善しつつある。

#### ② 平成 3 0 年度 教科書選定について（教務部長）

各学部の教科書担当者に調査の上、教科書が重複して使用しないように配慮している。

### 3 協議

#### ① 平成 2 8 年度「学校経営計画」と「運営方針」について（校長）

（会長）「学校・家庭・地域の連携と安全で安心な学校づくり」のうち、コーディネーターの授業の持ち時間数の軽減を行ったとあるが、地域支援の活動へどのような効果があったのか。

（首席）授業の持ち時間軽減があったので完全にペアで活動できる体制を構築することができた。また、増加する相談件数への対応も可能になった。

（医療）持ち時間軽減によって児童生徒への影響はなかったのか。

（首席）影響が出ないように年度当初より計画をしている。時間数に偏りが出ないように学部ごとに担当者を分配した。

（校長）地域支援の充実は本校全体の教育力の向上にもつながるため、校内で調整して時間軽減を設定している。

（会長）「進路・キャリア教育の充実」のところで、進路先から個別の移行支援計画を求められない

状況があるというが、進路先の施設が個別の移行支援計画を活用しきれていないということか。

(保護者) 昨年度の卒業生にも確認した。個別の支援計画や移行支援計画についてほとんど知らない保護者も多い。卒業時に進路先の施設に渡すということがしっかり伝わっていないために家庭で保管している例もある。懇談等で進路先に提出することをひとことそえて渡してほしい。また、進路先の施設も施設作成の様式に記入するため提出を求められない場合もある。

(校長) 学校は入学前の学校や施設から支援計画を引き継ぐことが当然となっている。学校側も進路先に情報をしっかり伝えていく必要がある。

(福祉) 移行支援計画は引き継げば貴重な資料となる。施設側も理解して取り組んでいく必要もある。

(会長) 学校から施設に渡すことはできず、卒業時に本人か保護者に渡し、施設に渡されるものである。学校自体の実態は施設にも役に立つ情報であり、役に立つツールである。断絶なく引き継いでいくためには学校も施設も取り組んでいく必要がある。Face to Face の関係だけの引継ぎだけでなく、移行支援計画も活用していけばより有意義なものになる。

## ② 平成29年度「学校経営計画」と「運営方針」について (校長)

(校長) 「学校・家庭・地域の連携と安全で安心な学校づくり」について、交流校との交流活動に障がい者スポーツを位置づけている。ボッチャを中心に進めていく。まずは交流校との行事に取り入れて、地域の支援学級を対象の講習や交流活動も進めていく。7月のボッチャ甲子園にも大阪選抜チームに選手を参加させる。地域での大会にも本校へ協力依頼がなされている。

(保護者) 児童生徒に興味を持たせるのも重要だが、学校外の活動では児童生徒だけでは移動ができないので保護者の協力が必要となる。保護者への啓発も進めていかないと活動は難しいだろう。昨年度、PTA でボッチャ講習をしたが、保護者もボッチャを知ることによって自分の子どもがプレイできる可能性を知ることができた。

(校長) 小学部の運動会で軽いボールで転がす競技を行っている。昨年度からも取り組んでいるが、1年たつと児童の意識も変わってゲームを楽しめるようになってきている。担当者も意識して取り組んでいるということだが、将来的にはボッチャにつなげていけるところがあるのではないかと思っている。

(医療) 大学も地域連携を考えている。児童生徒の社会参加につながるような取り組みになればよい。パラリンピックへの出場につながれば世界を舞台にした活躍にもつながっていく。

## 4 協議のまとめ (会長)

次回連絡

閉会